

## 11. 自然と共生しながら、自然と友達になる

友達になるということは、一方的な関係では友達になれない、お互いの性格を知ること  
で継続的な付き合いができ、相手に困らせないなどの思いやりが求められています。

自然災害は困ったこと、いやなこと、なくなって欲しいものかもしれませんが、自然現象  
がある限り、避けられるものではなく、必ずいつかは起きることは確かです。ただ、われ  
われが自然現象を正しく理解して、自然現象に大きく変化を起こすような人為的なことは  
避けなければならないし、これも防災の一部になります。起きたことに対する備え、起き  
る前の情報の収集など多岐にわたるのが防災ですが、その基本は、自分たちが生活域とし  
ての地域に関する土地の情報が基本になるし、そこで得たところの情報の扱ひ方、読み取  
り、応用、課題や問題点の抽出することは大切なことです。そして、情報を共有して新た  
に構想をすることが重要であり、災害が発生したときには、あわてずに先を見据えた行動  
ができて地域全体を自然災害から守る大きな力になります。加えて、そのような日々の継  
続的な意識は、防災に限らずに地域のコミュニティにも寄与することになるし、次世代へ  
も伝わる力になります。

確かに、防災備品をそろえることや耐震化、土のう袋も大事ですが、基本は土地の性状、  
自然現象に対するリスクを知っておくことの方が、早期の対応につながります。よく聞く  
ことですが、仮定の話では明確な対策が取れないと言われますが、仮定を立てて対応を考  
えることが防災であり、その仮定は正しい知識とこれまでの経験に基づくもので荒唐無稽  
なものではありません。また、大きな災害を風化させないということは、災害が発生して  
からでは、急には的確な対応ができないことがあるからだと思います。

わが国での自然災害というと、地震・津波、火山、豪雨災害、地盤災害などがあります。い  
ずれも、素因は地形、地質や地質構造ですが、誘因は気象をはじめさまざまな外的作用が  
あります。最近では各自治体でハザードマップを発表していて、大変重要な情報の一つで  
す。そして、わが国ではさまざまな災害があつて、危険なエリアもわかっていると思いが  
ちですが、問題は伏在している断層とか地質構造などがまだまだ存在しているようで、完  
全に把握されてはいません。また、どのような現象がどのような災害を誘起するのかにつ  
いても良くわかつてはいません。まだまだ、自然が起こすことを事前に理解することがで  
きないわけですので、経験知をベースにして、リスクを抽出しての最大値を想定する必要  
があります。

自然と共生することとは、昔の生活に戻るのではなくて、自然のサイクルが急激な変化  
で変質することが無いようにするというこで、災害地形を無視した開発、急激な人工改  
変や大規模な造成などについて、しっかりとリスクマネジメントをしておくことが大  
事になります。つまり、一方的な都合だけを考えて、相手の行動を阻害するようなことは  
避けることだと思います。リスクマネジメントでは、さまざまなリスクをあらゆる面から  
特定できますので、早期の災害への兆候を見出せることも可能かもしれません。防災は、  
極端なことを言えば、いかに早期に先を見て避難行動を起こせるかどうかです。